



床断熱材 プレカット

高い施工品質と手間・廃棄物の削減を両立 ダウ化工(株)「ぴたっとカットシステム」

床の断熱材施工は床合板の下に施工されるため、壁や天井などと比べて施工する条件が厳しい場合が多い。基礎の立上りに囲まれた床下とは言い、殆ど外気にむき出しの状態です。また、断熱材と床合板の間に隙間があると、通気・対流する空気が生じ、断熱の効果を半減させてしまうため、精度の高い施工が求められる。しかし、断熱材を上から敷き込みその上に合板を張るので、どうしても隙間の空気層が出来やすい作業となっているのが現状だ。

ダウ化工の「ぴたっとカット」システムは、床組に根太を用いない大引間断熱に対応した新しいサービス。CADデータ（CEDXMDデータを推奨）から断熱材の割付図面を作成し、NCルーターやパネルソー等によって断熱材が最適なサイズにプレカットされる。そのため現場では断熱材を受ける金具を大引に取り付けた後に断熱材を落とし込むだけで済み、施工品質の確保と手間の削減を両立することができる。

「ぴたっとカットシステム」のおまかな流れは、

- ①見積提示 ↓ ②単価契約 ↓ ③図面

- 取得（施工主から） ↓ ④割付図面、製品明細表の作成 ↓ ⑤最終見積 ↓ ⑥正式受注 ↓ ⑦プレカット、配送 ↓ ⑧現場施工

というシンプルなもの、見積提示から拾い出しまで4日間、正式契約から配送まで10日間程度となる。実際に本誌取材において、施工スケジュールが決定（正式契約）したのが11月14日、施工が行われたのが11月26日なので、休日を考慮しても10日以内に現場へ配送されていた。

今回、施工現場を取材させてもらったのは、茨城や栃木を主な営業エリアに年間70棟ほどを手がけるサンプ設計㈱。自社のパネル工場を持つ、地域密着型のハウスメーカーだ。同社がこのシステムを導入したのは、現場端材のリサイクルシステム構築をダウ化工に相談し、試験的に施工したのがきっかけ。

現場施工は、断熱材に付属するガルバリウム鋼板製のWZピンという金具を大引の長手方向に4箇所、均等にセットし、断熱材の横に記載された番号を割付図に照らし合わせながら順にはめ込むだけで済む。現場で断熱材をカット・調整する場合と比べ、40坪の現場で、二人工で2時間ぐらいの施工時間の短縮、1㎡以